

論文 / 著書情報
Article / Book Information

題目(和文)	
Title(English)	Achieving Innovation from Business Process Management
著者(和文)	TangJing
Author(English)	Jing Tang
出典(和文)	学位:博士(工学), 学位授与機関:東京工業大学, 報告番号:甲第9336号, 授与年月日:2013年9月25日, 学位の種別:課程博士, 審査員:飯島 淳一,妹尾 大,永田 京子,鍾 淑玲,鈴木 定省
Citation(English)	Degree:Doctor (Engineering), Conferring organization: Tokyo Institute of Technology, Report number:甲第9336号, Conferred date:2013/9/25, Degree Type:Course doctor, Examiner:,,,,,
学位種別(和文)	博士論文
Category(English)	Doctoral Thesis
種別(和文)	審査の要旨
Type(English)	Exam Summary

論文審査の要旨及び審査員

報告番号	甲第	号	学位申請者氏名	Jing Tang	
論文審査 審査員		氏名	職名	氏名	職名
	主査	飯島淳一	教授	鈴木定省	准教授
	審査員	妹尾大	准教授		
		永田京子	准教授		
		鍾淑玲	准教授		

論文審査の要旨 (2000字程度)

本論文は、「Achieving Innovation from Business Process Management (ビジネスプロセス管理によるイノベーションの実現)」と題し、ビジネスプロセス管理という観点から、イノベーション実現に対するソフト・ハード両面でのアプローチについて考察したもので、6章よりなっている。

第1章「Introduction (序論)」では、論文の問題意識と目的について述べている。すなわち、現代の企業活動において重要とされているイノベーションを実現するためのビジネスプロセス管理(BPM)の重要性は指摘されてはいるものの、BPMがどのような意味でイノベーションを起こすことに重要な役割を果たすのかに対する厳密な検討は行われておらず、また、イノベーション、特にITを用いたイノベーションにおける、顧客や従業員の問題について検討するための、BPMツールや技法なども未整備な状態であるという問題意識にもとづき、BPMに対する全体論的な観点から、①ビジネスプロセス指向性(BPO)とイノベーションとの関係、特に②「計画された行動理論(TPP)」にもとづく従業員のイノベーション行動に対する効果的な管理技法についての検討、そして、③BPモデリング方法論DEMOの相互作用モデルを用いたITベースイノベーション実現の方法論の確立、の3点が本研究の研究課題であるとしている。

第2章「Literature Review (既往文献のレビュー)」では、イノベーション概念、ビジネスプロセス指向性を中心としたBPMに関する議論、およびイノベーションとBPMに関する既往の研究のサーベイを行っている。

第3章「Investigating Effects of Business Process Orientation on Organizational Innovation Performance (組織レベルのイノベーションに対するBPOの影響について)」では、はじめに、既往の研究においてBPOが企業業績に対して正の影響を与えることが知られていること、しかしながら組織レベルのイノベーションに対する影響についての研究はなされていないことなどを明らかにし、BPOが組織レベルのイノベーションに対してどのような影響を与えるのか、そして、その与え方はどのようなメカニズムによるものなのかについて、我が国の一部上場企業を対象としたフィールドサーベイにもとづき、議論している。

第4章「Employees' Innovation Behavior : The Role of External Information Awareness and Proactiveness of Innovation Strategy (従業員のイノベーション行動：外部情報感度とイノベーション戦略の先見性の役割)」では、第2章及び第3章を受けて、BPMと従業員のイノベーション行動に焦点を当て、TPPにもとづき、従業員のイノベーション行動をどのように管理できるかおよびイノベーション戦略の先見性と外部情報感度が、従業員のイノベーション行動にどのような影響を当てるかについて、第3章と同様に、我が国の一部上場企業を対象としたフィールドサーベイにもとづき、議論している。

第5章「IT-based Innovation based on Business-IT Alignment : A Case Study of Aging Care System in Central Finland (ビジネス-ITアライメントにもとづくITベースイノベーション：中央フィンランドにおける高齢者介護システムのケーススタディ)」では、ITがイノベーションのイネーブラーとなることを多くの論者が主張していることを踏まえ、ビジネスとITの整合性を進めることによって、BPMがイノベーション実現に寄与するとの問題意識から、BPモデリング方法論DEMOの相互作用モデルを用いたBPモデリングと分析による4ステップからなるITベースイノベーション方法論の提案を行い、具体的に中央フィンランドの高齢者介護システムに適用し、デザインレベルの改善案を提案している。

第6章「Conclusion (結論)」では、本研究の内容についてまとめるとともに、今後の課題について述べている。具体的には、①BPOが組織レベルのイノベーションの実現に効果的であることを示し、②そのために必要となる従業員のイノベーション行動喚起のための管理技法を提案し、③DEMO相互作用モデルがビジネスプロセスデザインの改善を通じたイノベーションのための有効なツールとなりうることを示した、としている。そして、我が国だけでなく、さまざまな国において、BPOがイノベーションへの影響を与えることを確認すること、DEMOがITベースイノベーションへの有効であることの更なる検証、そして、本論文で取り扱わなかったBPOの他の次元(戦略的整合性および方法)について検討すること、などが今後の課題であるとしている。

以上、これを要するに本論文は、企業活動においてイノベーションを生み出すためのBPOの重要性、および従業員のイノベーション行動を喚起させる管理技法の明確化、さらに、DEMOを用いたビジネスプロセスイノベーションの方法論の提案を行い、それを海外の大規模なビジネスプロセスに対して適用したもので、工学上貢献するところが大きい。よって、博士(工学)の学位論文として十分価値があるものと認める。